

目指す学校像	「あいさつがあふれ、児童や教職員が協力できる学校」「児童が生き生きと学び、確かな学力が身に付く学校」「安心・安全な学校」
--------	--

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びを通した分かりやすい授業への授業改善 2 安心安全な学校に向けた教育支援と見守り体制の充実 3 学校運営協議会での情報共有並びに教育的な方策の創出 4 学校課題研修及び職員研修を通した教職員の資質向上
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度評価		
					評価項目の達成状況	達成度	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査の結果については、国語より算数の正答率が高い。算数におけるTTによる指導が生かされているものを考えられる。 ○全国学力・学習状況調査の国語の結果については、「話すこと」「聞くこと」に成果が見られる。過去3年間、学校課題研修に取り組んでいたことも起因している。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果では、国語の「読むこと」、算数の「数と計算」の領域が他の領域に比べて課題がある。 ○全国学力・学習状況調査の結果として、二極化傾向が見られる。	主体的・対話的で深い学びを通した分かりやすい授業への授業改善	①全国学力・学習状況調査の前年度の問題に取り組み、児童の抵抗感を軽減するとともに、児童の課題を洗い出し、学習支援する。 ②全国及び市の学力調査の結果をもとに「読むこと」についての児童の正答率を分析し、市教委による「学力向上カウンセリング」を受講することで、児童への学習支援を実施する。 ③「読むこと」について市教委から指導主事を招聘し、講話及び助言を受け、学校課題研修として、児童の学習支援に生かす。	①夏季休業中に、学習状況調査の問題に取り組み、問題分析を行い、日々の児童への学習指導に生かすことができたか。 ②「読むこと」に関する問題について、正答率を昨年度以上にすることができたか。 ③学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の昨年度以上の結果となったか。また、「よい授業」アンケートの平均値において、昨年度以上の結果となったか			学校運営協議会からの意見・要望・評価等
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査の質問紙の「いじめはどんなことがあってもいけない」項目では、児童の肯定的回答が極めて多い。 ○昨年度、児童の大きなけがは発生していないが、休み時間中の小さなけがは数多く発生している状況である。 (課題) ○コロナ禍でもあり、心に悩みを抱える児童が少なからず見られる。 ○SNS 関連のトラブルについて、今後は重点的に指導する必要がある。	安心安全な学校に向けた教育支援・校内体制の充実	①昨年度、施設の環境による児童の怪我や事故は発生していないが、休み時間中のけがは少なくない。休み時間中のけがの防止のため、「生活のきまり」見直すことで、けがを防ぐ。 ②いじめ防止委員会、生徒指導委員会等で、児童の実態と効果的な支援方法について共有し、児童の支援に生かす。	①学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、関連する項目の昨年度以上の結果となったか ②毎月の生活実態アンケートの結果において日々の児童への見守り、支援に生かすことができたか			
3	(現状) ○全国学力・学習状況調査の結果については、国語より算数の正答率が高い。算数におけるTTによる指導が生かされているものを考えられる。 ○全国学力・学習状況調査の国語の結果については、「話すこと」「聞くこと」に成果が見られる。過去3年間、学校課題研修に取り組んでいたことも起因している。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果では、国語の「読むこと」、算数の「データの活用」の領域が他の領域に比べて課題がある。 ○全国学力・学習状況調査の結果として、二極化傾向が見られる。	学校運営協議会での情報共有並びに教育的な方策の創出	①各行事の実施の際、学校運営協議会のメンバーに行事を公開し、成果と課題等について助言を得る。 ②学期に1回の学校運営協議会において、その都度、課題について熟議を行い、教職員の研修や児童の指導に生かす。	①学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、関連する項目の昨年度以上の結果となったか ②運営協議会を円滑に運営し、熟議について教職員への周知徹底が行われたか、また、教職員が児童の指導に生かすことができているか			
4	(現状) ○主体的・対話的で深い学びについては、教員は意識して指導している。 ○ICT 機器を基盤とした児童の個別最適な学びのため、エバンジェリストを中心とした ICT 機器の活用について研修を通し、共通理解を図っている。 (課題) ○ICT 機器の活用については、教員間で差が見られる。エバンジェリストを中心とした研修体制を構築していく。	学校課題研修及び職員研修を通した教職員の資質向上	①管理職による評価授業を2回実施し(学期に1回ずつ)、フィードバックを実施する。 ②指導主事の要請訪問、市教委の学力向上カウンセリングを受講し、指導を受け、教員の資質向上に努める。	①学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、関連する項目の昨年度以上の結果となったか ②「よい授業」アンケートの平均値において、昨年度以上の結果となったか			

実施日令和 年 月 日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等